

学校教育の中心は、確かな学力を身に付け、心と体をもち、郷土の自然や文化を愛する「三谷っ子」を育成する。  
 ・目指す児童像 (あ)挨拶・正しい言葉遣いができる子 (い)命を大切に、ふるさとを愛する子 (う)運動・体力作りにはげみ体を鍛える子  
 (え)人に優しいいつも笑顔があふれる子 (お)お勉強や読書を進んでがんばる子

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	年度当初の現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	判定結果	成果と課題	今後に向けて
①教育課程・学習指導	主体的な学習態度を育て、基礎的基本的な学力の定着と共に、言語活動を充実させ、活用力(思考力・判断力・表現力)の向上に努める。	「家庭学習」「はげみ学習」の充実を図る。 書くことの指導を充実させると共に、授業改善・指導法の工夫に努める。	教務主任	学習意欲と基礎的基本的な学力の定着に個人差がある。 活用力を高める授業実践は十分とは言えない。	【成果指標】 学年相当の知識・技能が身につけている。 【努力指標】 活用力向上に向け、指導法の工夫改善に取り組むことができた。	国語・算数の評価テストの全ての観点で、80%に達した児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業・はげみ学習・家庭学習の内容やそのあり方を再検討する。	単元毎に行う評価テスト等で行う。 学期毎に教員対象に調査を実施	A A	朝学習やはげみの時間、家庭学習の充実により、基礎的基本的な学力の定着が見られる。ただ、学習したことの理解に不安を抱いている児童が数名いる。 題意を捉える力・目的や意図に応じ必要となる事柄を整理して簡潔に書く力に課題が見られる。 指導法の工夫改善、各自の取組みを交流したことで、授業改善への意識を高めることができた。	個に応じた適切な個別指導を徹底し、確かな学力の定着を図っていく。 目的や意図に応じ、伝えようとする内容の中心を的確にして、文末まで正確に書く指導を充実させる。
	学び合いを通して、自己の考えを形成し、その考えを広めたり高めたりしようとする意欲をもった子どもを育てる。	一人一人の考えや思いをつなぐ学び合いの場を国語科を中心に全教育活動で意図的に設定する。	研究主任	意見交流の経験を積み上げてきたことで、比較して考えたり、考えを深めたりすることができるようになってきた。他教科でも活用しようとする姿が見られている。	【成果指標】 国語科及び他教科・他の活動場面において学び合いの場を意図的に設定する。 【努力指標】 国語科以外の教科及び活動場面において学び合いの場を年間20回設定した教師の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	国語科以外の教科及び活動場面において学び合いの場を年間20回設定した教師の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は指導法を改善する。	学期毎に、教員対象の調査を実施	A	・国語科を中心に、単元や題材にねらいを達成するために言語活動を設定するよう意識が教職員の中で定着した。 ・児童が言葉により思考し、表現するといった単元構成を、教師が意識し教材研究をすることができた。	・国語科の授業づくりについては、来年度も今年度に引き続きおこなう。外部講師を招へいし、先進校の取り組みなども聞きながら、三谷小学校の目指す姿を共通理解したい。 ・来年度は授業づくりの基礎となる学級づくりにも目を向け、児童が意欲的に参画できる学級づくりについての研修を深める。
②生徒指導	明るいあいさつや返事ができ、何事にも努力し困難を乗り越えようとする子どもを育てる。	全校であいさつ運動に取り組み、意識を高める。 学習活動、特別活動等で、児童が能動的に活動する場を設けたり、活動の目標を持たせたりする。	生徒指導主事	あいさつをする児童は多いが、元気に明るいあいさつをするという様子がまだ足りないように感じられる。また、決まった場面ではできていない。 委員会や集会活動で主体的に活動する児童が増えてきたが、責任を最後まで果たすことができない児童も見られる。	【成果指標】 ・気持ちよいあいさつをしようとする意識する児童が増えた。 【満足度指標】 ・児童が能動的に活動する場を設けたり目標をもたせたりすることができた。	気持ちよいあいさつをしようとする意識がもてた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 児童が能動的に活動する場を設けたり目標を設定させたりできたとする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は指導法を改善する。	児童及び教職員を対象にアンケートを実施	A	児童会や登校班で行ったあいさつ運動や、『あいことば大作戦』(期間を設けあいさつした人数をカードに記入し、クラスごとの記録を玄関前に掲示した)などを通して、自ら元気にあいさつをしようとする児童が増えてきた。 しかし、高学年は、あいさつをするのが元気がない場合が見られ今後の課題である。 委員会で活動する時や企画を行う際にめあてをもたせ、主体的に取り組めるように場を設定したことで、責任をもって児童が増えてきた。また、全職員が、授業において児童が能動的に活動する場を意図的に設定しようという心がけることができた。 学校内の様々な場面で児童がより主体的に行動できるように場を工夫・改善して設定することが必要である。	今後も引き続き、児童が主体となってあいさつ向上に向けた取り組みを行っていくことが大切である。特に高学年に取り組みのねらいを伝え、指導していく。 児童が能動的に活動する場の具体的な取り組みを、職員のアンケートを通して情報交換するなどして、職員の指導の工夫・改善につなげていく。
	自己肯定感をもつと共に、友達の長所を認め、親切にできる子どもを育てる。	児童理解の場を適宜もち、児童個人及び全体の様子について共有する。	生徒指導主事	固定化された人間関係の中で悩んでいる児童が見られる。職員全体で共通理解して指導にあたる必要がある。	【努力指標】 児童個人及び全体の状況の把握に努めている。	児童の状況把握及び対策を十分にするための児童理解の割合が A 年間12回以上実施した B 年間10回以上実施した C 年間8回以上実施した D 年間7回以下実施した	C・Dの場合は計画や内容を再検討する。	年度末に回数を調査	B	月1回以上児童理解の会を設けてきたことで、課題がみられた児童に対して全職員が共通した指導を行うことができた。その結果、児童の言動が改善されたり、周りの児童の対応に変化が見られたりした。 いじめの事案はみられないが、児童の細かな言動や家庭との連携を密にしながら、児童理解に努めた。	今後も定期的に情報交換を行い、全職員で共通理解して指導にあたる。急を要するものについては、臨時的児童理解をひらき速やかに具体的な対応を検討していく。
③進路指導・生き方指導	三谷の自然や文化を理解し、行事などに進んで協力し参加する子どもを育てる。	学習活動を通して地域の自然や文化や行事についての理解を深め、愛する心を育てる。	道徳教育推進教師	人材活用ファイルや実践例を活用して授業に取り組んでいるが、まだ十分とは言えない。	【成果指標】 ふるさとの自然や文化について理解し、進んで行事などに参加できたとする児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は計画や内容を再検討する。	児童アンケートを実施	A	どの学年においても生活科、総合学習や道徳などで積極的に地域の人材を活用し、自然や文化にふれることができた。また、地域の行事に参加する楽しさを感じ、進んで参加する児童が多い。	今後も積極的に地域の人材を活用し、児童の地域への愛着心を高めていくことが必要である。	
	幅広いジャンルの本を読み、夢や希望と広い社会的視野をもった子どもを育てる。	司書や委員会を通じて積極的に本の紹介を行う。学校全体で読書の日を意識づけをはかるような取り組みを行っていく。	図書館指導担当	昨年度までの取り組みの結果学年に合った読書ができる児童が増えてきている。読書の楽しさを実感している児童も多い。だが、全体として図書館の利用は少ない。	【努力指標】 担任が意識して積極的に日常的に図書館を利用した読書活動を取り入れ、児童に読書ノートを活用して100冊以上の本を読もうという意欲を持たせられたか。	年間を通じ、積極的に読書活動を取り入れてきた学級担任の割合が A 全学級 B 4学級以上 C 3学級以上 D 3学級未満	C・Dの場合は取り組み方法を再検討する。	年度末に学級担任の自己評価を実施	B	授業で図書館を活用したり、読書ノートの内容を見て励ましたり読書活動を積極的に取り入れた結果、100冊(2500ページ)達成をする児童が増えた。	今後も、100冊(2500ページ)に達していない児童が100%になるように推進していきたい。
④安全管理	定期的な点検活動と危機管理意識の高める訓練を通して、児童が安全で、安心した学校生活を送れるようにする。	年3回の避難訓練の実施と内容の充実。 毎月の安全点検の実施。	教頭	地震・火災・不審者避難訓練を年1回ずつ実施しているが、それぞれもっと工夫した、実践的な訓練も必要である。	【満足度指標】 様々な状況に対して、職員や児童が適切かつ安全な避難行動ができる。	学期ごとの避難訓練が危機意識を高める。充実した訓練に A 3回もなかった B 2回はなかった C 1回はなかった D ならなかった。	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	訓練後、職員にアンケートを実施	B	不審者対策訓練では、地域や警察の方の協力を得、充実した訓練となった。 火災訓練と共にどちらも短時間で避難できた。 児童への事前指導や職員の研修も実施した。二回の訓練では、しゃべらないという約束が守られなかった。	今年度初めて児童引き渡し訓練も実施予定であるが、できるだけ保護者や地域の方の協力を得ながら進めながらよりよい避難方法、引き渡し方法等改善を図ってきたい。また各訓練内容も様々なケースを想定しながら、計画したい。
⑤保健管理	自他の心身を大切に、自ら健康な心身をつくらうとする子どもを育てる。	・家庭と連携しながら、望ましい生活習慣を確立する。 ・むし歯の予防と治療について家庭と連携しながら、取り組む。	保健安全担当・養護教諭	・望ましい生活週間について、意識し生活しているが、行動にうつせない児童がいる。 ・むし歯の治療率は、昨年度57%から71%に上がった。	【成果指標】 望ましい生活習慣が身につけている児童が増えるようにする。 早期にむし歯治療をするように担任と連携し、治療率100%を目指す。	望ましい生活習慣を意識し行動している児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 むし歯治療 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	〈生活習慣〉 7月、12月に児童・保護者対象にアンケートを実施(アンケート項目は別添)と考える。 10月に集計	(生活習慣) 児童のアンケート結果は、昨年度より割合が上昇していた。(7月:73%→81%、12月:58%→79%)けんこう生活チェックを月ごとに担任、養護教諭でチェックしたことで、児童が生活習慣をふり返り行動し、自己評価が上昇したと考えられる。 しかし、7月から12月でやや割合の低下がみられた。各学年別のアンケート結果を参考に、個別または学年単位での保健指導を行い、全体で望ましい生活習慣を意識して行動できる児童を増やしていく必要がある。 (むし歯治療率) むし歯治療率は、昨年度71%から84%に上がった。今後も家庭と連携を取りながら、治療率100%を目指すように、勤めていく必要がある。	(生活習慣) けんこう生活チェックの項目を検討し、月ごとのチェックを継続して望ましい生活習慣について児童に意識付けをしていく。 アンケート結果の割合が低い学年に対しては、担任、保護者等と連携し保健指導を実施していく。 (むし歯治療率) むし歯治療の大切さについて、児童に正しい知識を定着させる。	
⑥特別支援教育	一人ひとりに応じた関わりや指導方法を研究し、校内の協力体制のますますの充実を図る。	外部から専門の講師を招き、個に応じた具体的な対応を探る。	特別支援教育コーディネーター	・特別支援学級ができて2年目だが、学級として十分に浸透してきている。支援児童は、学年が進級し環境が大きく変化したことに戸惑う様子も見られる。 ・友達との関わり方がうまく行かず、トラブルを生んでしまうような事例も見られる。生徒指導という側面からだけでなく特別支援という見方でも見ていく必要がある。	【努力目標】 ・特別支援教育の視点を意識し、日頃の指導に役立てる。	専門相談員を積極的に活用したり、校内研修会に参加したりする中で、具体的に指導改善に役立てることができたと思えた職員の割合が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C・Dの場合は改善策を再検討する。	年度末に職員を対象にアンケートを実施	A	ゆりのき学級については、年度当初は環境の大きな変化に児童自身が戸惑っている様子が見られたが、5月に専門相談員の派遣を実施したことにより具体的なアドバイスをもらえたことで、状況は次第に改善していった。本年度は、特別支援学級の児童のみならず、児童の行動等で気になることがある場合も、早期に専門相談員と連携し、対応をとることができた。(5回来校)	全教職員の共通理解のもとに、特別支援教育がより一層の充実を図るように、夏休み等に専門相談員を要請した形での研修を実施する。
⑦組織運営	学校ビジョン達成に向け、各主任や分掌担当が学校評価計画に基づいて組織的、効率的に取り組む。	各担当の取組についての進捗状況や内容について、運営委員会等で情報の交流や共通理解、指導助言を行う。	教頭	ビジョン達成に向け、それぞれの職員が、取り組み始めているが、より組織的、効率的に、十分な成果が上がるようにすることが、大切である。	【努力目標】 ビジョン達成に向け、情報の交流や共通理解、指導助言を行うことができた。	組織的、効率的な学校運営が A:適切に図られた B:おおむね適切であった C:やや不十分であった D:不十分であった	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	年度末に教職員を対象にアンケート調査を実施	A	特別に主任会議は開催しなかったが、学校ビジョンや学校評価計画に基づき、各主任や分掌担当がそれぞれ連携と取りながら組織的、効率的に学校運営がなされた。	職員構成や分掌見直しにより、必要ならば教務、生徒指導、保健体育等の各校内委員会を設置する。
⑧研修	学校研究をとおして教職員個々の資質・能力及び指導力の向上を図る。	授業研究をとおして指導主事等や外部講師から学ぶ研修を充実させ授業改善に役立つようにする。	研究主任	全職員自主発表に向けて意欲的に研修に臨んでいる。授業改善を目指しているが、瞬時の対応の仕方など各々課題を抱えている。	【成果指標】 研修内容を生かして授業改善する。	研修内容を授業改善に役立てた割合が A 100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、研修会の内容、持ち方を再検討する。	年度末に職員を対象にアンケートを実施	B	国語科の授業づくりについて、研究授業を全担任がおこなった。 校内研修サポート事業を活用し、授業分析についても学び、研修で学んだことを日々の授業で活かす方法について学び合った。	国語科については、研修内容を十二分に授業改善に役立てることができた。来年度は、学習集団としての学級づくりという視点でも研修を行う予定なので、他教科田領域においても研修が活かされるよう、研修内容をより充実させる。
⑨保護者、地域との連携	家庭・地域との連携を深め信頼される学校づくりを目指す。	学校の教育活動を学校だけでなく毎月保護者や地域に配布したり、ホームページで積極的に発信する。 地区公民館行事との連携協力を進める。	情報教育担当	学校ホームページには、学校便りが毎月更新されているだけである。	【満足度評価】 保護者・地域の人が本校の様子がよく分かる。	HPや各種便りで学校の様子が、わかる保護者の割合が A:90%以上 B:80～90%未満 C:60～70%未満 D:60%未満	C・Dの場合は改善策を再検討する。	保護者にアンケートを実施	A	学校ホームページの更新や学校だよりはもちろん各学年だよりでも学校、児童の様子を保護者や地域に発信できた。また主な学校行事等も、地域に回覧版を通してお知らせできた。	今年度のように引き続き、情報発信に継続して取り組む。また公民館活動についてもできる限り、学校として協力し、家庭・地域との連携を深める。
⑩教育環境整備	学びの場として相応しく心温まる掲示等の校内環境を充実させる。	各学年や委員会の活動がわかる掲示となるよう働きかける。	掲示指導担当	掲示版の改善、担当場所の明確化がされている。	【満足度指標】 教育環境を意識した掲示に取り組んでいる。	教職員が学びの場としてふさわしい環境(掲示を含む)であると判断している割合が A 100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、計画を検討する。	年度末に職員を対象にアンケートを実施	A	各担当の掲示版が学習の成果等を発表する場、情報を得る場として活用されていた。掲示版が校内全体として効果的な活用ができるよう職員全員で折りこみ見直しされ、改善されてきた。	職員誰からでも気づいたことや改善点を提案してもらい、一層効果的で学習環境づくりの一環となるような掲示計画を立て、実行していきたい。

学校関係者評価  
 ・評価としてはおおむね良い結果が出ている。特に⑨の学校ホームページについては、今年度から随時更新し、地域や保護者の連携や学校の教育活動の理解に十分役立っている。  
 ・③の読書活動についても、全校児童に「読書ノート」を持たせることで意欲を高め、全校上げて年間継続して取り組んでいることは、評価できる。  
 ・④の安全管理では、児童引渡し訓練が予定されているが、非常に重要な取組なので、地域との連携を推進してほしい。地域としても協力したい。  
 ・アンケート結果から学校・友会行事に対して良い評価が出ている。次年度も検証を行いながら改善していく必要がある。  
 ・⑥保健管理の生活習慣についての「C」評価については、次年度の課題として学校と保護者との連携で望ましい生活習慣に取り組んでいく必要がある。